

TAC行政書士講座 無料講座説明会（ガイダンス）

受験経験者のための戦略的学習法

TAC行政書士講座講師 佐藤リサ

1. 行政書士試験の概要

- （1）試験概要
- （2）試験科目・出題数
- （3）合格基準

2. 行政書士試験に合格する方法

- （1）やるべきとき
- （2）やるべきこと
- （3）しっかりやる

3. 受験経験者のための戦略的学習法

- （1）学習方法の振り返り
- （2）戦略的学習法①「やるべきとき」対策
- （3）戦略的学習法②「やるべきこと」対策
- （4）戦略的学習法③「しっかりやる」対策
- （5）最後に～本気になるということ～

1. 行政書士試験の概要

POINT

行政書士試験は、取得すれば行政書士となる資格を得ることができる法律系の国家資格です。合格率は例年 10%前後、法律の基礎と法律家としての素養が試される内容となっています。

(1) 試験概要

試験日	例年 11 月第 2 日曜日
試験時間	例年午後 1 時から午後 4 時まで
受験資格	特になし
合格発表	例年試験日の翌年 1 月下旬
合格率	10%前後（令和 3 年度は 11.18%）

(2) 試験科目・出題数

科目		択一 (4 点)	多肢 (8 点)	記述 (20 点)
法令 46 問 (244 点)	憲法	5 問 (20 点)	1 問 (8 点)	
	民法	9 問 (36 点)		2 問 (40 点)
	行政法	19 問 (76 点)	2 問 (16 点)	1 問 (20 点)
	商法	5 問 (20 点)		
	基礎法学	2 問 (8 点)		
一般知識（※）14 問 (56 点)		14 問 (56 点)		
合計		60 問 (300 点)		

※行政書士の業務に関する一般知識（政治経済社会、情報通信・個人情報保護、文章理解）

（3）合格基準

①～③の全ての要件を満たした受験生が合格

- ①法令等の得点が、244 点中 50%にあたる 122 点以上であること
- ②一般知識の得点が、56 点中 40%にあたる 24 点以上であること
- ③試験全体の得点が、300 点中 60%にあたる 180 点以上であること

2. 行政書士試験に合格する方法

POINT

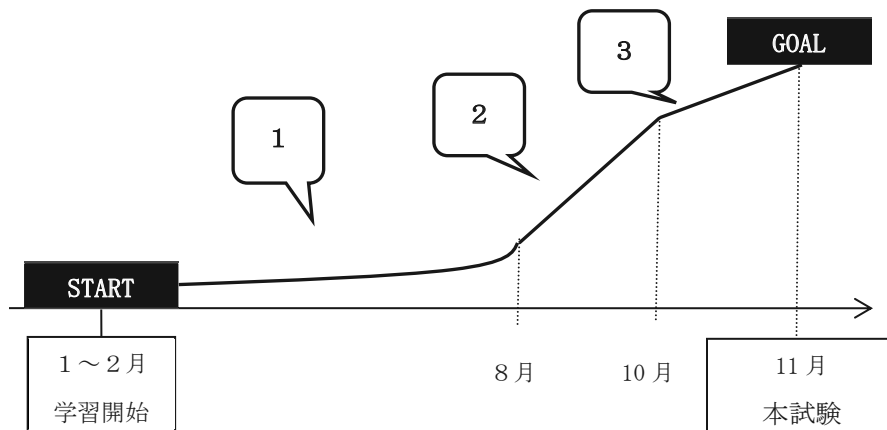
この試験に合格する方法は、次の3点（この3点を揃える）。

- ① _____ ときに
- ② _____ ことを
- ③ _____ やる

①やるべき ②やるべき ③しっかり

（1）やるべきとき

【行政書士試験の学習段階と成長曲線（初学者の場合）】



やるべきとき		説明
1	インプット期	行政書士試験出題全科目を まずは1周 させる時期。
2	強化期	自分のペースで繰り返し、 強化学習 をする時期。
3	直前期	本番のシミュレーション をし、本番レベルと現状レベルの差を縮めていく時期。

（2）やるべきこと

【やるべきときに合わせたやるべきこと（初学者の場合）】

やるべきとき		やるべきこと
1	インプット期	・ 1 回講義を受けたら、1 回分の講義の復習をする（過去問集 2 周） ・ 択一式の問題を解き、基本的な条文・判例知識を身に付ける。
2	強化期	・ 2 大重要科目を中心に繰り返し学習（過去問集 3 周目以降） ・ 40 字記述式の問題集を解き、40 字記述式の形式に慣れる。 ・ 特に弱いと感じられる部分はオプション講座等を受け、強化する。
3	直前期	・ 1 週間に 1 回のペースで本番形式の答練・模試を受ける。 ・ 答練・模試の復習＋次回答練・模試の準備＋弱点補強でまた次の答練・模試を迎える。 ・ 11 月に入ったら、最後は過去の本試験問題で本番のシミュレーションをする。 ・ 条文素読（憲法統治・行政手続法・行政不服審査法）

（3）「しっかり」やる

⇒上記を、**質の高い方法**で**丁寧**に行う。

ex. 質を高めた復習方法、質を高めた問題演習方法、知識集約作業等々…

3. 受験経験者のための戦略的学習法

（1）学習方法の振り返り

POINT

これまでの学習方法を振り返り、合格する方法と照らし合わせて、何が足りなかったのかを認識することから**再チャレンジ**は始まります。足りないことを、「**受験経験者ならではの強み**」（※）も活かして補っていきましょう。

※「**受験経験者ならではの強み**」とは…

行政書士試験全体が見えていること、行政書士試験という山の高さを体感していること。

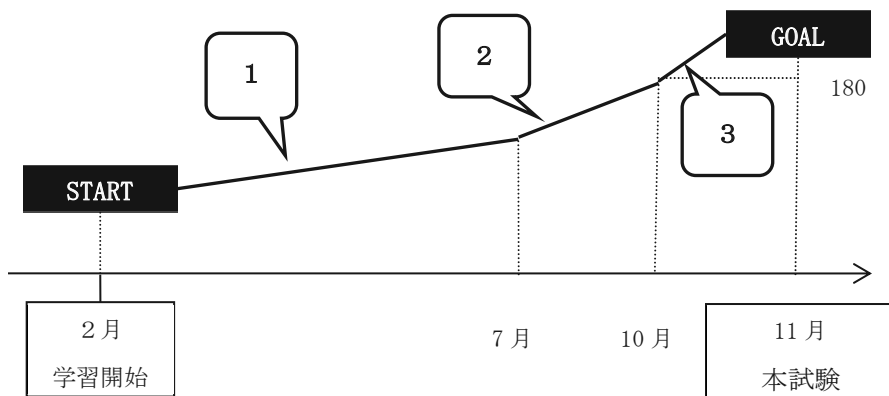
【問題点と対策】

問題点	対策
全範囲の勉強を十分にすることができなかった	⇒ 戦略的学習法 ①「やるべきとき」対策へ（p. 5～6）
問題を解く力が全体的に弱い	⇒ 戦略的学習法 ②「やるべきこと」対策へ（p. 6～7）
本番で初めて見る問題や、40 字記述式の問題が苦手	⇒ 戦略的学習法 ③「しっかりやる」対策へ（p. 7）

（2）戦略的学習法①「やるべきとき」対策

POINT
全体スケジュールを立てるにあたり、 意識改革 をしましょう。
×「全範囲を1年度で1周させる」⇒ ○「全範囲を最低でも①____周させる」
×「180点取れば良い」⇒ ○「自分の合格点は②____点」
①3 ②200

【行政書士試験の学習段階と成長曲線（受験経験者の場合）】



フェーズ	合格者のパターン
1 基礎力養成期	< 1 周目 > 行政書士試験出題全科目を1周させる。 自分の知識の穴を発見⇒埋める、を繰り返し、土台を固める。

2	実戦力養成期	< 2～3 周目 > 少しレベルを上げて、行政書士試験出題全科目をさらに 1～2 周させる。 実戦力（勝負できる肢で勝負する（※）力）を上げる。 POINT 「直前期答練で合格点突破」を目標とする
3	直前期	< 最終調整 > 本番のシミュレーションをし、力試し・最後の調整をする。 POINT 「本番で 200 点以上」を目標とする

※「勝負できる肢で勝負する」とは…

問題の中から基本知識（＝勝負できる肢）とそれ以外を見抜き、基本知識を正しく正誤判断し、それを軸に答えを導き出す手法。

（3）戦略的学習法②「やるべきこと」対策

POINT 勉強をより「実戦型」に変えていきましょう。 ゴール＝本試験「問題」であることを認識し、①_____を学習の中心に据えましょう。	
①問題演習	

【やるべきときに合わせたやるべきこと（受験経験者の場合）】

やるべきとき		やるべきこと
1	基礎力養成期	< 1 周目 > 1 週間に 1 回のペースで行政書士試験出題全科目につき、基礎レベルの答練・模試（40 字記述式含む。）を受ける。 ⇒答練・模試に向けた準備・復習
2	実戦力養成期	< 2～3 周目 > 1 週間に 1 回のペースで行政書士試験出題全科目につき、応用レベルの答練・模試（40 字記述式含む。）を受ける。 ⇒答練・模試に向けた準備・復習
3	直前期	< 最終調整 > 1 週間に 1 回のペースで本番形式の答練・模試を受ける。

		⇒答練・模試に向けた準備・復習 過去の本試験問題による本番のシミュレーション 条文素読（憲法統治・行政手続法・行政不服審査法）
--	--	---

（４）戦略的学習法③「しっかりやる」対策

POINT	
初めて見る問題や40字記述式の問題に対応するためには、 知識を使う＝頭を働かせることが必要（※）。「働かせることができる頭」を作っていきます。 普段の学習の中でも一つ一つを「しっかり」丁寧にいき、頭を働かせる練習をしましょう。	
※「40字記述式問題を解くのに必要な力」とは…	
基本①_____の知識 ＋ 事例を読み解く力（事例でどの①_____知識を聞こうとしているか②_____力） ×無から有を生み出す・文章作成能力 ⇒ ○択一で問う「基本知識」の「再現」	
①条文・判例 ②見抜く	

【答練・模試「しっかりやる」復習 3大チェックポイント】

1	「問題」単位ではなく「肢」単位で見直す	「どうやったら正解を導けたか」ではなく「 1肢1肢に関連する知識を身につける 」という意識で見直す。 ×1問1知識 ⇒ ○1問5つ程度の知識
2	各肢の正誤の理由を一言で説明する	説明できるかどうか、本当に理解できているかどうかのバロメーターとなる。
3	手を使う	解説に頼らない。解説は自分で作る。 問題の答えは解説ではなく、テキスト・六法・判例集に探す。答え合わせ時は、テキスト・六法・判例集を開く（＝手を使う）。

（５）最後に～本気になるということ～

POINT

本気になるとは...

行政書士試験という①_____を知り

自分の実力を知って②_____になり

再び③_____

こと。

合格のために本当に意味があるのは、本気になってからの学習です。

意味のある学習をしっかり積み重ねて、合格をつかみ取りましょう！

①山の高さ ②謙虚 ③前を向く